

地方創生推進交付金事業評価シート

項番	施策・事業内容					重要業績評価指標 (KPI)						外部検討委員会 評価	備考
	事業の名称	事業の概要	事業実績額(千円)	事業の内容	担当課	評価	指標	基準値	R元年度末 目標値	R元年度末 実績値	R2年度末 目標値		
①	地域を主体とした世界農業遺産活用戦略推進事業	<p>【課題】</p> <p>みなべ、田辺地域は、国内最大の梅の生産量を誇り、梅干し等の加工業が発展してきた。2012年の梅の生産量は4万4千トン、農業産出額は130億円以上、加工品の製造も含めると約700億円となり、梅の生産農家、梅の加工業など梅関連産業の従事者は全就業人口の約7割を占め、まさに地域の基幹産業となっている。</p> <p>しかし一方で、米食の減少や若者の梅干し離れなどによる梅の消費量の減少、価格の低下により、梅の生産量や加工品の売上額が縮小し、地域の経済、雇用にも影を落とすつつある。</p> <p>【事業概要】</p> <p>元気なまち、元気な若ものを育成するため、世界農業遺産の活用保全の中で、住民を主体とした取組を推進、地域の魅力を発信できる人材、地域に残る人材、リーダーになれる人材を育成する。また世界農業遺産の認知度向上、梅や関連特産品の消費拡大のため、首都圏でのシンポジウムの開催、国内8つの世界農業遺産認定地域と共同で都市圏での物産展開催や、認定地域間のコラボ商品の開発等に取り組む。</p> <p>さらに、梅（UMÉ）関連製品の輸出、海外市場開拓のため、海外のシェフによる梅を使ったメニュー開発やレストラン等のバイヤーを呼んでの商談会、メディアを呼んだ海外発信により、地域内事業者と海外とのネットワーク構築を図る。</p> <p>その他、地域（梅システム）の保全のため、官民学（行政、地域、大学、高校）が連携して、ミツバチによる生物多様性評価の分析を行い、今後の地域の梅のブランディング、新たなミツバチ関連の商品開発に繋げる。また海外研修生の受入を推進し、世界に梅産業・文化を発信していく。</p>	1,652	<p>当該事業については、「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」が実施主体となり事業を行う。経費については、加盟地方公共団体から負担金を徴収する。</p> <p>1. 人材育成事業 331千円</p> <p>住民主体で実施する、保全活用の取組に対して支援を行う。</p> <p>（1）住民提案型地域活動支援事業補助金 331千円</p> <p>2. 調査研究・活用検討事業 637千円</p> <p>2016年度に作成した活用プランの検討、作成のために組織した専門部会を引き続き、活用プランの推進の中心として活動し、各事業の検証及び新たなプランも検討する。</p> <p>（1）住民主導型活用プラン推進費用 637千円</p> <p>3. 海外戦略事業 0千円</p> <p>JETRO連携事業として、梅・梅加工品の海外市場販路開拓のため、対象品目ごとにターゲット国、地域、売り込み先を選定し、支援スキームを決定する。具体的なアプローチとしては、海外販路開拓（バイヤー・シェフ招聘、ミッション派遣）と現地情報発信（プレス・ブローガー招聘）を効果的に組み合わせ、短中期（2～3年）的に目標を設定し実施する。なお、実施にあたっては、和歌山県、田辺市、みなべ町、県農、JA、うめ研、関西国際観光推進本部などの関係団体と協議・役割分担しながら行う。このため、JETRO事業に含めることができないバイヤーやシェフ、プレスを招聘する場合の一部費用や海外ミッション派遣における参加企業の負担を支援する経費を協議会事業として実施補完する。</p> <p>※コロナ禍の影響により事業中止</p> <p>4. 消費拡大及び情報発信事業 684千円</p> <p>国内外の消費者向けに、世界農業遺産や梅を含めた地域特産品をPRするため、世界農業遺産国内認定地域と共同で物産展等を開催する。また、認定5周年を迎え当該地域の認知度向上を図るため、動画配信事業を実施する。</p> <p>（1）共同イベント会場設営費用 0千円</p> <p>（2）共同イベント講師招聘費用 0千円</p> <p>（3）共同イベント販促資材購入費（需用費） 232千円</p> <p>（4）動画作成、編集費用 385千円</p> <p>（5）撮影用物品等費用 67千円</p> <p>※共同イベントは、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった。</p>	うめ課	C	①訪日外国人宿泊客数	81,809人	112,809人	80,694人	124,809人	4,871人	136,809人
							②新規就農者数	11人	21人	21人	25人	23人	30人
							③二ホンミツバチの飼養数	486群	586群	106群	636群	88群	686群
							うちみなべ町分						
							①訪日外国人宿泊客数	50,851人		29,768人		1,554人	
②新規就農者数	3人		9人		13人								
③二ホンミツバチの飼養数	167群		27群		37群								

施策・事業内容の評価欄について

A: 地方創生に非常に効果的であった(全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)

B: 地方創生に相当程度効果があった(一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)

C: 地方創生に効果があった(KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進し・改善したとみなせる場合)

D: 地方創生に対して効果がなかった(KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)

外部検討委員会の評価欄について

A: 総合戦略のKPIの達成に有効であった

B: 総合戦略のKPIの達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金事業評価シート

項番	施策・事業内容					重要業績評価指標 (KPI)						外部検討委員会 評価	備考
	事業の名称	事業の概要	事業実績額(千円)	事業の内容	担当課	評価	指標	基準値	R元年度末 目標値	R元年度末 実績値	R2年度末 目標値		
②	オリンピック新種目スポーツライミングを核としたスポーツツーリズム推進事業	<p>【課題】</p> <p>みなべ町は、第1次産業への就業率が高く、主要産業である梅の生産・加工業への就業者数は、町民全体の42%を占めているが、米食の減少や若者の梅干し離れなどによる梅の消費量の減少、価格の低下により、梅の生産量や加工品の売上額が縮小している。</p> <p>また、町へ訪れた方に対して、スポーツを「観る」「する」というスポーツツーリズムを推進する施設が隣接市町と比べて少なく、スポーツの町「みなべ町」としてのイメージが希薄で、スポーツを「支える」地域の人々との交流の機会が少ない。</p> <p>【事業概要】</p> <p>みなべ町の特産である梅とスポーツを融合させて、梅による疲労回復・健康増進などの効能をPRすることにより、「梅＝健康＝スポーツ」の情報発信し、また、町内のスポーツ環境の整備向上を図り、また、これらのイベントを通じて若者が参加したい、集まりたい町をつくり、併せて観光客を呼び込み、新たな人の流れをつくる「スポーツツーリズム」に取り組む。</p> <p>厚生労働省から発表されている健康日本21にも記載されているとおり、「健康」と生活習慣病の予防や健康維持のためには、「運動」は、必要不可欠なもので、日頃から「健康」に気を使い、「運動（スポーツ）」をしている人は、新たな販売促進のターゲットとして、非常に有効であると考える。</p> <p>本町をスポーツの町「みなべ町」としてのイメージを浸透させるため、平成27年のわかやま国体で使用されたウォールを廃校となった中学校体育館に設置し、新たなスポーツ「ボルダリング施設」として開設した。ボルダリングは、東京オリンピックの新種目として採用されたことから、より注目を集められる施設となった。</p> <p>一方で、地域住民が主体的になって、地域のスポーツ環境を形成するため、総合型地域スポーツクラブ「みなべ梅の里スポーツクラブ（仮称）」の設立を目指しており、その中でPRイベントの開催（クライミング教室など）、世代間交流や地域コミュニケーションを生み出し、また、ボルダリング施設は、大人だけでなく子どもたちも利用できることから、町内を問わず、町外や県外から多くの方が訪れてもらえるように、平日の体験日の実施、月一回のクライミング教室や壁を登るための課題ルートの変更や難易度の設定などにより、新しいルートを登りたいという参加者の期待に答え、熱気にあふれる施設にしてい</p> <p>その他、競技大会である「梅の里カップ・ボルダリング大会」や世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」に認められた里山などの美しい自然やすばらしい景観、登山道や林道など舗装されていない山などの中を走る、新しいスポーツであるトレイルランなどをスポーツ大会を開催し、スポーツを「観る」「する」「支える」のスポーツツーリズムを推進する。</p> <p>これら魅力あるスポーツ資源を最大限に活用し、町内外の人々の交流を呼び起こして、各種スポーツに適した梅製品のニーズ調査を実施し、町の特産である梅干しの消費拡大を進め、産業振興や観光振興を図る。また、スポーツツーリズム人材を育成・活用し、魅せるスポーツコンテンツづくりを図る。</p>	577	<p>ソフト事業</p> <p>【ボルダリングの環境整備と県内外への普及】</p> <p>ボルダリング競技の普及をとおして、スポーツの町「みなべ町」の魅力を発信すべく、国体選手による教室や日本体育大学との連携による普及イベントが開催できるよう模索していたが、コロナ禍の影響を鑑みて実施は叶わなかった。</p> <p>また、ボルダリング施設の利用についても、4月当初からの活用を予定していたが、6月からの実施となった。</p> <p>・マンスリー課題セット委託料 202千円</p> <p>・ボルダリング施設管理委託料 299千円</p> <p>【アスリートと地域の交流促進】</p> <p>和歌山県紀南地方には本町にしかないボルダリング施設を活用して、スポーツクラブや大学などとの交流を促進し、スポーツ合宿を誘致する策を模索していたが、コロナ拡散防止の観点から実施は叶わなかった。</p> <p>・事業費 0円</p> <p>【各種スポーツに対応する梅製品の開発】</p> <p>コロナ禍の影響をうけて、ほとんどの各種スポーツイベントの実施が見送られたなか、規模を縮小して実施した2大会にて、梅の効能を紹介するチラシを配布し消費宣伝につとめた。</p> <p>・大会補助金 75千円</p>	教育学習課	B	①年間観光客数(人)	626,502	636,502	672,010	646,502	397,660	656,502
							②新規就農者数(人)	9	12	9	15	13	18
							③製造品出荷額等(百万円)	28,345	29,345	29,971	30,345	34,373	31,345

施策・事業内容の評価欄について

A: 地方創生に非常に効果的であった(全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)

B: 地方創生に相当程度効果があった(一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)

C: 地方創生に効果があった(KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進し・改善したとみなせる場合)

D: 地方創生に対して効果がなかった(KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)

外部検討委員会の評価欄について

A: 総合戦略のKPIの達成に有効であった

B: 総合戦略のKPIの達成に有効とは言えない